

まじはら

「落ち着いて働く」

「そのような者たちに、主イエス・キリストにあって命じ、勧めます。落ち着いて働き、自分で得たパンを食べなさい。」

(テサロニケの信徒への手紙二 第3章12節・新約聖書374頁)

はじめに

パウロは、テサロニケの信徒たちを「信者の模範」だと賞賛し、「失望に終わらぬ希望を持ち忍耐していたこと」「神の選びを確信し、信頼していたこと」「聖霊による喜びを持って御言葉を受け入れていたこと」を理由に挙げました。さらに、「神の賞を得るために、目標を目指してひたすら走る」ことを勧めて、「教会の上に立つ働き人を敬う」「神にあって信徒との交わりを持つ」「自らが神と深い交わりを持つ」ことを継続するようにと説きました。二通目の手紙では、地に足を付けた信仰生活を送るようアドバイスしています。

原因は熱狂的な信仰

ここで「怠惰な生活」をしている者の存在が明らかになっています。なぜこのような信徒が現れたのでしょうか。私たちが信仰告白している教えの一つに「再臨」があります。主イエスが昇天された時、天使が「同じ有様で、またお出でになる」(使徒1:11)と告げたことが実現する時であり、聖書全体から総合して語るならば、その日が私たちの完全な救いの日となります。信仰を持って死んでいた者はパラダイスと呼ばれる天に向かう待機場所にいますが、そこから呼び出され、生きている者は天に上げられます。私たちは聖書に書いてあるが故に、このことを疑ってはなりません。今までのことが実現したように、再臨も実現するのです。

ところが、過去にもあったのですが、聖書に、信仰の油断を招かないためにも、明日来るかも

しれないとの言葉があり、それを期待しすぎて日常生活を捨て、それのみに心を支配されてしまった者たちがいたのです。苦しみから逃れたいとの背景もあったでしょう。そこに「生活の怠惰」が起きました。

再臨を待ち望む姿勢

働くことをしなくなり、他人の力に依存し、にも関わらず、働いていることを信仰がないように批判する。そのような怠惰は神の御心ではありません。パウロは「主の日」、再臨を待ち望むようにと説きながら、みずから労苦し骨折って夜も昼も働いて、模範を示したと行っています(3:8～9)。

落ち着いて働く

では、具体的にはどのようにしたらよいのでしょうか。まず「落ち着いて働く」ことです。これは、自分の与えられた使命を全うする姿勢です。神は私たちにさまざまな役割を与えます。それは自分が得たように思いますが、すべて神の導きによるもので、主がそこに遣わされたのです。だからこそ、その立場にあって、使命を全うする。それが神の御心です。

次に「自分で得たパンを食べる」です。これは、依存する生活ではなく、自立的な生活を意味しています。信仰面を強調するなら、いかに自立した信仰を確立していくかが問われています。自分の信仰によって神の本当の養いを知るようになるからです。

【礼拝説教はスマホでも視聴できます】
右記のQRコードを読み取ってアクセスしてください。



今週の祈り

「きょうだいたち、私たちの主イエス・キリストの名によって命じます。怠惰な生活をして、私たちから受けた教えに従わないすべてのきょうだいを避けなさい。どのように私たちを見習うべきかは、あなたがた自身がよく知っています。私たちは、あなたがたの間で、怠惰な生活を送りませんでした。また、誰からもパンをただでもらって食べたりしませんでした。むしろ、誰にも負担をかけまいと、労苦し骨折って、夜も昼も働いたのです。私たちに権利がなかったからではなく、あなたがたが私たちに倣うように、



身をもって模範を示すためでした。…あなたの中には、怠惰な生活を送り、少しも働かず、余計なことをしている者がいるということです。そのような者たちに、主イエス・キリストにあって命じ、勧めます。落ち着いて働き、自分で得たパンを食べなさい。」(テサロニケの信徒への手紙二 3:6～12)

神さま、生活も、信仰も、怠惰な生活になっていないかを問われました。どうか、私が自分の使命を忠実にやり、自立した信仰を持っていくことができるようにしてください。御名によってお祈りいたします。アーメン。

深読みにチャレンジ!

箴言 (79) 第4章7節

*三つの違う訳を読み比べてみましょう。

◎協会共同訳 「知恵の初めとして知恵を得よ。あなたが得たすべてを尽くして分別を得よ。」

◎口語訳 「知恵の初めはこれである、知恵を得よ、あなたが何を得るにしても、悟りを得よ。」

◎新改訳 「知恵の初めに、知恵を得よ。あなたのすべての財産をかけて、悟りを得よ。」

「見守る」

よく政治家が「一丁目一番地」という表現で、何よりも優先して実行する決意を語ります。ただ、その多くは実行に移せず、結局三丁目になったりするのですが、あえて使わせていただきます。知恵の一丁目一番地は「知恵」です。当然ながら、この知恵とは1章7節にあるように「神を畏れること」です。この規準が定まらなければ、町の区分が一丁目も三丁目も定まらないように、人間の生き方も無秩序になります。

さて、次の部分ですが、「得るものの初めとして分別を得よ」ではなく、「あなたが得たすべてを尽くして」となっています。分別を得る前に持っているものがあり、それらを代価に払っても分別を得なさい、と言っているように思います。ただ、それなら最初から分別を求めよと言うべきではないのかとの思いも出てきます。

「あなたの得たすべて」とは何を指しているの

【神からの知恵によって生きる】

箴言はソロモンが語った知恵の言葉を中心に構成されています。31章から構成されていますが、あたかも短編を読んでいるかのように、種々雑多な知恵の言葉が連なっています。ソロモンが思いつくままに語った言葉を、そのまま筆記したのではないかと思えるほどです。

この書このような性格上、まとめて解説するのが難しいため、この欄で、一つ一つの言葉をじっくり味わいたいと思います。箴言から得る知恵によって、深みのある生き方を学び、よりよい人間関係を築かせていただきたいと思います。

- 1 父から子へ・受け継がれるべき知恵 (1:1～9:18)
- 2 生活の処方箋・知っておくべき知恵 (10:1～22:16)
- 3 先人からの知恵 (22:17～31:31)
 - a 知恵ある人の言葉 (22:17～24:34)
 - b ソロモンの言葉 (25:1～29:27)
 - c アグルの言葉 (30:1～33)
 - d レムエルの言葉 (31:1～31)

でしょうか。おそらくは、生活をする中で得た物質的な財産や自分の経験、また自分が持ち合わせた能力などを指し、それに替えてでも得なければならないのが分別、つまり聖と俗を分けることができる力、神中心の生活課この世の基準で生きるのかの分別です。築き上げた財産をすべてなげうっても、神に従えということです。

つまり、主イエスが、富める青年に「全財産を施して、私に従え。そうすれば永遠の命を得る」と言ったことが、この御言葉の意味するところ

聖書日課

毎朝、決められた時間に聖書を読み、お祈りをするのはクリスチャンの生命線です。この聖書日課を使って心の糧を欠かさないようにしましょう。そのために最低でも15分間を神との交わりのために聖別してください。

朝にどうしても時間のとれない方は、昼休みでも就寝前でもかまいません。ぜひ、実行してください。

【祈りの時の持ち方(例)】

- ①まず黙想し、次に、自分の心を神に向けるために賛美する。賛美曲を歌えない場合は、歌詞を味わう。
- ②御言葉を読み、自分へのメッセージが何かをさぐる。例えば、神の恵み、告白すべき罪、従うべき命令、ならうべき模範など。
- ③自分が神のメッセージにどうこたえるのかを祈る。感謝や信頼の表明、悔い改め、服従、献身など。
- ④自分の祈りだけでなく、できるだけ「祈禱課題」も祈る。

【月曜日】 ◆今週のすべての集会在祝福され、救いにつながるように祈りましょう。

列王記下第8章19節「しかし主は、僕ダビデのゆえに、ユダを滅ぼそうとはされなかった。主は、ダビデとその子孫に絶えず灯を与えると約束されたからである。」◆自分の家族が信仰を継承できずに悩んでおられる方は多い。ダビデの信仰のゆえに、彼を滅ぼさなかったとの言葉にあるように、何代も前(約150年)のダビデの祈りが聞かれていたのだから、私たちも熱心に祈らなければならない。私の祖父は1945年に召天したが、彼が存命の時から、熱心に「まだ見ぬ」子孫の救いのために祈っていたのは間違いない。私が救われたのがその証拠だ。

●賛美 / 459 ●祈禱課題

◆昨日、礼拝に集えなかった人が恵みからもれないように。
◆この教会も世界宣教の一拠点であることを自覚し、重荷を持って祈れるように。特に共産圏、イスラム圏伝道が進むように。迫害にある宣教師のために。現地語聖書の翻訳が進むように。異端からの救出が進むように。台湾活水泉の活動のために。

【火曜日】 ◆教会のビジョンのため、将来の働きが祝福されるように祈りましょう。

列王記下第9章1節「預言者エリシャは預言者の仲間の一を呼んで言った。『腰に帯を締め、手にこの油の小壺を持って、ラモト・ギルアドに行きなさい。』」◆エリシャに派遣される預言者は決死の覚悟が必要だった。だが、油を注がれ、王として立つように促されたイェフは、次々に行動を起こし、イスラエル最悪の王、そして国を惑わし続けた王妃イゼベルを倒し、さらにアハブの家を滅ぼし尽くしていく。すべては預言通りの結末だったのだが、神は、強固と見られた内部からの崩壊をも実現できることを示された。

●賛美 / 460 ●祈禱課題

◆日本福音同盟、日本福音連盟、聖化交友会、キリスト教各出版社、EHC、ケズィック、太平洋放送協会、F E B C、キリスト者学生会、日本国際飢餓対策機構、ワールド・ビジョン、いのちの水計画、総動員伝道、Hi-b.a.、日本国際ギデオン協会(聖書配布)、新生宣教団等の働きとスタッフのため。

【水曜日】 ◆宣教福祉事業が祝福されるように祈りましょう。

列王記下第10章34節「イェフの他の事績、彼が行ったすべてのこと、すべての功績、それらは『イスラエルの王の歴代誌』に記されているとおりである。◆北イスラエル王国の歴代王の中でイェフは最も神の御旨に従った人である。アハブの家とバアルの預言者、そしてバアルに関わる偶像を一掃した。これは驚くべき革新的な行動である。金の子牛を拜む信仰だけは捨てなかったものの、このことにより神はイェフの家を守る約束をされた。神信仰をしない人でも、信仰者と同調し、協力できる人はいる。同信でないからとさばくだけではいけない。

●賛美 / 461 ●祈禱課題

◆新会堂が与えられるように祈りましょう。①バス通りに面した場所に良い土地が与えられるように②十分な資金が与えられるように③早期に建てられるように
◆宗教法人を取得できるように
◆伝道の拠点が祝福され、用いられるように。(まきば、小山宮下事務所、向陽町)

【木曜日】◆弱っている方々、病にある方々のために祈りましょう。

列王記下第11章3節「ヨアシュが乳母と共に主の神殿に隠れていた六年の間、この国を治めていたのはアタルヤであった。」◆アハブとイゼベルの娘アタルヤは、息子のアハズヤが戦死したと聞くやいなや、アハズヤの息子たちを含めたその血縁を殺害し、南ユダ王国の王位を奪った。しかし、事前に察知した祭司ヨヤダはヨシエバに指示し、乳飲み子であったヨアシュを隠した。恐怖政治の中、ヨアシュには主の守りがあった。私たちが暗黒の中、臥薪嘗胆の日々を過ごすことがあろう。しかし、主は必ず光を昇らせくださる。祈り待て。

●賛美／462 ●祈禱課題

◆教会学校の成長と救い、青年の結婚、教会員の信仰の成長と家族の救いのため。

◆教会ビジョンのため（社会宣教事業、伝道所の開設、保養施設建設、会堂建築、納骨堂、宗教法人格取得、学生寮、高齢者住宅）、教会員から伝道者や献身者が与えられるよう、教会会計の祝福

【金曜日】◆礼拝出席平均が50名以上となり、受洗者が年間3名以上与えられるように祈りましょう。

列王記下第12章3節「ヨアシュは、祭司ヨヤダの教えを受け、生涯を通じて主の目に適う正しいことを行った。」◆ヨアシュにとってヨヤダは命の恩人でもあったが、その生涯を通し、ヨアシュの信仰を支えたのも彼である。王国時代、神は王の近くに祭司や預言者を置いて、神の言葉を告げながら、時に励まし、時には戒め、王が曲がった道に進まないように導いておられる。現代において信徒が教会に属しているひとつの理由は、自分の信仰が自分勝手に曲がらないためである。そのために牧師がいて、教友がいる。

●賛美／463 ●祈禱課題

◆この教会に聖霊の著しい働きがもたらされ、リバイバルが起こるように。常に新来会者が与えられ、求道者、受洗希望者がもたらされて、教勢が祝福されるように。

◆土屋牧師、淳子師（牧師一家）、思乃扶師、石出師の働きのために。

◆老齢の方、病の中にある方々のいやしのために。

【土曜日】◆聖日に備え、健康が保たれ、出席しやすい天候が与えられるように祈りましょう。

列王記下第13章19節「五度、六度と射るべきであったのだ。そうすればあなたはアラムを全滅させるまで打ち破ることができたであろうに。」◆「なぜ三度でやめたのか」とエリシャは怒った。アラムが攻めようとする中、死が近いことを感じていたエリシャは、王国の存続が難しくなる絶体絶命のその時に、「救いを求めよ」と叫んだ。だが、イスラエル王ヨアシャ（ユダ王ヨアシュとは別人）の姿勢は中途半端だった。この記事はよく祈りの姿勢について語る時、引用される。求めよ、そうすれば与えられる。そのように言われたのだから、徹底的に求めたい。

●賛美／464 ●祈禱課題

◆子どもを含め、すべての人が礼拝を守れるように。あらゆる集会が祝福され、参加者が御言葉によって取り扱われるように。奉仕者が恵まれてご用にあたれるように。

◆ホームページが用いられるように。また礼拝動画が用いられるように。教会から出している週報や印刷物が用いられるように。

【日曜日】◆新来会者が起こされるように祈りましょう。

列王記下第14章25節「レボ・ハマトからアラバの海まで、イスラエルの領土を回復したのはヤロブアムである。イスラエルの神、主が、ガト・ヘフェル出身の僕、預言者アミタイの子ヨナによって語られた言葉のとおりである」◆この記事で、ヨナがこの時代よりも前に預言活動をしていたことがわかる。ヨナ書を読むと、彼は重要な預言を残したのだろうかと思うのだが、ここから重要な預言を託されていたことがわかる。その箇所だけでは分からないが、もっと視野を広げていく必要がある。言葉の細部ではなく、俯瞰することで、より深く理解することができる。

●賛美／465 ●祈禱課題

◆この教会に連なるすべての方々が聖日礼拝を厳守できるように。聖書通読を続けられるように。御言葉を味わえるように。祈りに励めるように。ささげる恵みにあずかれるように。積極的に神さまから受けた恵みを語れるように。

◆受験生、就職活動者、試練にある者のために。



おやこでせいしよ

●きょうのせいしよ

【ルカによるふくいんしよ 18:9～14】

「ただしいにんげん」

(ルカによるふくいんしよ 18:14)

じぶんは なんでもできる とか、じぶんは かっこいいと じしんを もっている ひとが います。でも、よく かんがえてみると、その ひとよりも あたまがいいひとは たくさんいる し、もっと なんでもできるひとや かっこいい ひとが たくさんいるのです。そういう じぶん をよくおもうことを うぬぼれ といいます。

イエスさまは たくさん の たとえばなしを されましたが、「うぬぼれたひと」の たとえを はなされたことがあります。

じぶんが ただしいにんげん だとうぬぼれ しているだけではなく、ほかのひとを じぶんより も ひくくみている ひとが とうじょうしま す。じつは、そのような ひとが イエスさまの まわりには たくさんいたのです。しかも、み んなに せいしよにかいてある りっぼうを おしえ、「せんせい」とよばれていた ファリサイ

は の ひとたちが そうでした。

たとえには しんでんで おいのりをささげる ふたりの ひとがでできます。ひとりは ファリサイは の ひとで、「わたしは ほかのひとの ように つみぶかくはありません。とくにこの と なりにいる ぜいきんを あつめる ものよ うな きたない つみぶかい ものでないことを かんしゃします」とい の っていました。

となりの ぜいきんを あつめる しごとをし ていたひとは どうだったでしょうか。「わたし は つみぶかいものです。かみさま どうぞ あわ れてください」と なみだをながす ようにし てい の っていたのです。

イエスさまは いいました。「どちらが かみ さまからの ゆるしを いただいた でしょうか」。 みんなは どうおもいますか。

かみさまは たかぶり、うぬぼれた ファリサイ は の ひとではなく、かみさまのまえに つみ を みとめ、あわれみを いた だこうと へりく だ ったひとを ゆるし、すくって くだ された の でした。

●かんがえてみよう

☆イエスさまの たとえばなしに でてくる ふたりは どんなひとでしたか(ルカ 18:10)

☆ファリサイは の ひとは どのように いの っていましたか。(ルカ 18:11)

☆イエスさまは どのような いのりが かみさまに うけい れられるのか おしえて いますか。(ルカ 18:14)



なみむ聖書

もじ独

あいているマスに、右の9文字のどれかを入れます。タテ列（9列あります）、ヨコ列（9列あります）、太線で囲まれた3×3のブロック（それぞれ9マスあるブロックが9つあります）のどれにも9文字のいずれかがはいりますが、文字が重なってはいけません。数独と同じ要領です。

あわれんでください

| | | | | | | | | |
|---|---|---|----|---|---|---|---|---|
| | | い | く | だ | わ | あ | | |
| わ | ん | だ | | あ | | く | さ | い |
| | あ | | ん | | さ | | で | わ |
| | | | わ | れ | ん | さ | | あ |
| だ | | | | さ | | | | |
| | わ | | | | | | | |
| | | | | わ | | | い | |
| で | い | わ | さん | あ | | く | | |
| | | ん | い | で | れ | わ | あ | さ |

ことばあそび

今週の聖書箇所の中に出てくる言葉です。それぞれを並び替えると意味が通る言葉になります。答えてください。

（サムエル記下5章）

- ① くだものへるり
- ② ちょうにんぜい
- ③ このなかころ
- ④ きだんじ

まちがいさがし

3つあるよ!さがしてね





牧師の 聖書 ななめ読み

「宗教改革」

宗教改革記念日が過ぎました。宗教改革と言え
ばルター。ですが、ルターだけではなく、同時多発
的にドイツ、フランス、イギリス、北欧などで宗教
改革運動が起こっていました。私はこの宗教改革を
ルネサンスの一環として捉えています。

ルネサンスは、それまで権力者や領主の下で農
奴のように暮らし、それが当たり前の方だと考
えていた民衆が、「目覚めた」ことによって起こっ
た文化運動です。つまり、既成の殻を打ち破る力

が爆発した時期と言えるでしょう。

ルターも、教会もカトリックの既成組織に支配さ
れて信仰生活を送っている信徒を解放するために
「万人祭司」、祭司や神父はいらない。ひとりひと
りが神さまの前に出て、祈ることができるのだと説き、
「信仰義認」、祭司や神父が救いを宣言するのでは
なく、ひとりひとりの信仰によって、救われるのだ
と主張し、「聖書のみ」、祭司や神父だけが読むこと
ができるのではない。ひとりひとりが聖書を読むこ
とができ、御言葉に触れることができると語って、
民衆が分かるドイツ語に翻訳しました。これにより、
それまでの形骸化した教会生活ではなく、聖書が
示す本物の救いにふれ、信徒たちはその喜びを爆
発させた、それが宗教改革なのです。

聖書ふれあい街歩き

●ヘルモン山

たびたび聖書に出てくるヘルモン山は、現在
のイスラエル、シリア、レバノンの三国の国境
になっているのですが、すでにヨシュア記に、
「ヘルモン山全土と、サルカに至るまでのバシャ
ンの領土」(13:11)とあるように、この時以降、
北の国境として認識されました。たとえば申命
記では「シドン人は、ヘルモンをシルヨンと呼
び、アモリ人はセニルと呼んでいた」(3:9)も国
境に関わる記述であると言えます。ヘルモンは
ヘブライ語「聖別」に関係する語で、「聖なる山」
との意味になります。シルヨンはフェニキアで
使われていた言葉で、「輝く」、セニルはアモリ
語で「鋭い」を意味していると言われていま

す。標高は約 2800 メートルで、パレスチナでは
最も高い山になっていて、冠雪もあります。で
すから、雪解け水が南麓に流れを作り、ヨルダ
ン川ができたのです。「ヘルモンの露のようだ。
それはシオンの山々に滴り落ちる。主はそこで
祝福ととこしえに及ぶ命を定められた」(詩編
133:3)は、ヘルモン山を恵みの象徴としてとら
えています。

主イエスが変貌したのは、聖書の記述などを
考えて、この山の中腹あたりだったのではない
かと思います(私見)。

ななめ聖書 先週のこたえ

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ま | い | ん | ざ | け | え | わ | さ | の |
| わ | え | の | い | さ | ま | ざ | ん | け |
| さ | ざ | け | の | ん | わ | え | ま | い |
| ん | ま | い | さ | え | け | の | わ | ざ |
| け | わ | さ | ん | ざ | の | い | え | ま |
| ざ | の | え | わ | ま | い | さ | け | ん |
| の | ん | わ | ま | い | さ | け | ざ | え |
| い | け | ざ | え | わ | ん | ま | の | さ |
| え | さ | ま | け | の | ざ | ん | い | わ |

- ①ひどいききん
- ②ぶたのせわ
- ③とおいくに
- ④しんだい



マケドニアからトロアスへ

パウロは、シリア州へと船出しようとしていたとき、彼に対するユダヤ人の陰謀が起こったので、マケドニア州を通して帰ることにした。

同行した者は、ピロの子でベレア出身のソパトロ、テサロニケのアリスタルコとセクンド、デルベのガイオ、テモテ、それにアジア州出身のティキコとトロフィモであった。

この人たちは、先に出発してトロアスで私たちを待っていたが、私たちは、除酵祭の期間が明けた後フィリピから船出し、五日でトロアスに来て彼らと落ち合い、七日間そこに滞在した。

週の初めの日、私たちがパンを裂くために集まっていると、パウロは翌日出発する予定で人々に話をしたが、その話は夜中まで続いた。私たちが集まっていた階上の部屋には、たくさんの灯がついていた。

(使徒言行録20:3~8)



パウロは除酵祭をフィリピで守った。

【第三回伝道旅行の前半を振り返る】

ここまでの伝道旅行の行程を確認しておきます。

第三回伝道旅行はAD53年から58年頃だったとされていますが、宣教拠点になったシリア州のアンティオキアを出発します。目的はこれまでの伝道旅行で信徒になった人々の集まり、つまり教会を巡回して、カブけるためでした(18:23)。

まず、陸路でガラテヤ地方とフリギア地方を巡回します。おそらく、デルベ、ルストラ、イコニオンなどを訪ねた後、エフェソに抜けるのですが、そのコースからいって、コロサイやラオディキアも通過したと思われます。記述の短さから、単独での出発だったかも知れません。

エフェソに到着し、約3年間滞在した(20:31)と考えられます。もしかすると通算かもしれないのですが、この時、最低でもティラノの講堂で2年間は伝道したことで、アジア州の人たちが福音を聞きました。

その後、マケドニアを通してエルサレムに帰ることを決心し、そして「ローマに行く」決意表明をします。ここで先発隊としてテモテとエラストを送り出し、直後に起こったデメトリオの騒動が収まったのを確認してから、おそらくペルガモンなどを訪れながら、陸路トロアスに到着、そこからマケドニア州に渡り、ネアポリス、フィリピ、テサロニケ、ベレアなどを訪問してから、海路からギリシア、つまりコリントに来て約3カ月滞りました。

そして、コリントからエーゲ海を渡ってシリア州に直行しようとしたのですが、不穏な動きを察知し、再びマケドニアに戻ることにしたのです。

そして、同行すべく集まっていた弟子たちを先

にトロアスへと向かわせ、自分は除酵祭の期間が明けた後、5日、トロアスで彼らと落ち合った。ここまでが前半の工程です。

【除酵祭】

除酵祭をエルサレムで過ごそうとした寄留のユダヤ人は、コリントからも大勢いたでしょう。その中にパウロの暗殺を企てる人物が紛れ込んでいてもわかりません。その情報があったため、パウロはマケドニアにまわり、フィリピで除酵祭を過ごすことになりました。

除酵祭を簡単に説明しておきます。エジプトを脱出する際に定められた「7日間、種なしパンを食べる」祭りです。過越の夜、柱と鴨居に子羊の血を塗った家には災いが通り過ぎました。この過越に続くのが除酵祭になります。以来、神の民たちは、エジプトの奴隷から解放し、救ってくださったことを記念し、毎年第一の月(ニサン)14日に小羊を屠り、15~21日に種なしパンを食べてきました。3月下旬から4月上旬になります。ただ新約時代には、すでに除酵祭と過越祭が一つにまとまって考えられています。

パウロは、ユダヤ人を救いに導くためにユダヤ人の祭りを行うと同時に、実はこの過越祭と除酵祭が、主イエスの十字架によって成就したと理解していたことで、より重要な行事として位置づけていたのです。「キリストが、私たちの過越の子羊として屠られた…パン種の入っていない純粋で真実なパンで祭りを祝おう」(コリント一5:7~8)と書き送っています。

おわかりのように、十字架は過越祭、除酵祭の時期(ヨハネ12:1、13:1、19:14)で、受難週はその時期に合わせて、守られてきているのです。

キリスト教まるわかり Q&A

◆何もわからないのですが。

必要なものはお貸しし、一つずつお教えいたします。また信仰の強要はいたしません。

◆礼拝とは何ですか。

私たちの悩みは神から離れていることに原因があります。礼拝で神を賛美し、祈り、御言葉を聞くことにより、人間のあるべき姿を取り戻していく、それが礼拝です。

◆献金とは何ですか。

神への献身を表すもので、お布施や聴講料、会費ではありません。本人の意志に任されており、あくまでも自由です。趣旨のわからない方はなさらなくても問題ありません。

◆聖餐式とは何ですか。

信仰告白をし、洗礼(バプテスマ)を受けておられる方のみになりますが、主イエスと共に生きていることを確認する儀式で、聖別された

パンとぶどう液をいただきます。

◆信者になるにはどうしたらいいですか。

自分の意志で主イエスの福音を信じ、洗礼を受けることにより教会員(信者)と呼ばれます。

◆キリスト教会は様々な教派があります。

大きく分けてカトリック教会とプロテスタント教会があります。プロテスタント教会は、設立された時代や地域、歴史的な背景によって成立が違うため、多くの教派がありますが、憎み合っているのではなく、互いの特色を認め合い、助け合っています。

◆にせのキリスト教会がありますか。

キリスト教の枠組みからずれている教えについて、私たちは異端と呼んでいます。代表的な団体には「エホバの証人」「モルモン教会」「世界平和統一家庭連合」などがあります。特に韓国系キリスト教活動にはお気をつけください。お困りの方は牧師までご相談ください。

2025年教会暦・年間行事

(#はその年によって変動します)

「教会暦」はキリストの生涯をたどりながら1年を過すために作られました。当教会では教会暦に、継承されてきた伝統的記念日に加え、守っています。

顕現節(1/6～#3/4)

降誕日(12/25)から12日後に東方の博士がキリストを礼拝した顕現日(1/6)から始まります。降誕されたキリストが世界の救い主であることを覚えて過ごします。顕現節の最終主日は受難の整えをされた変貌のできごとを覚え、変容主日(#3/2)として守ります。

四旬節(#3/5～#4/12)

前年に使用したしゅろの枝を灰にしてかぶり悔い改めを表した儀式(この教会では行いません)、灰の水曜日(#3/5)から始まります。レントとも呼び、主日を除いた復活日前日までの40日間、キリストの受難を覚えて過ごします。

四旬節に続く受難週(#4/13～4/19)は、主イエスの最後の1週間を覚える週で、エルサレム入城に際し、しゅろの枝を用いて歓迎したしゅろの主日(#4/13)から始まり、洗足と主の晩餐が行われた木曜日(#4/17)、十字架にかかれた受難日(#4/18)と過ごしていきます。

復活節(#4/20～#6/7)

キリストが死にかけて復活されたことを祝うイースター(復活日・#4/20)から始まります。春分の日後の最初の満月の次に来る日曜日と定められているので、祝日が毎年変動します。40日後のキリストの昇天(#5/29)を迎えたのち、復活節の最終主日(昇天主日 #6/1)となります。

聖霊降臨節(#6/8～#11/29)

復活日から50日目、聖霊が使徒たちに降ったことを記念する聖霊降臨日(ペンテコステ・#6/8)から始

まり、三位一体主日(#6/15)では父、御子、御霊の働きを告白し、過ごします。最も長い節期となります。

待降節(#11/30～12/24)

救い主キリストの誕生を祝う備えをしながら、待ち望むアドベント(待降節)は、11月30日に一番近い主日から始まります。降誕を祝うクリスマスは12月25日ですが、クリスマス礼拝(#12/21)は、25日以前の日曜日を選んでをささげています。

降誕節(12/25～1/5)

イエス・キリストの誕生を祝う日(12/25)から始まり、顕現日前日までの期間を指します。

【記念日】

母の日(5/11・5月第二)
ウェスレー回心記念日(5/24・1738年)
花の日(子どもの日・6/8・6月第二)
父の日(6/15・6月第三)
ホーリネス弾圧記念日(6/26・1942年)
宗教改革記念日(10/31・1517年)
収穫感謝日(11/23・11月第四)

【当教会行事】

新年元旦礼拝(1月1日・水)
成人祝福礼拝(#1/14・1月第二)
聖書愛読週間(#3/23～29)
みふみの日(3月23日)
教会創立記念礼拝(3月最終主日/創立記念日3/27)
最後の晩餐集会(#4月17日夕)
召天者記念合同礼拝(#6/1・6月第二*今年は第一)
弾圧記念礼拝(#6月22日・26日前後の主日)
石出忠師記念礼拝(#7月6日・7月第一)
敬老祝福礼拝(#9/14・9月第三)
子ども祝福礼拝(#11/2・11月第一)
クリスマスイブ礼拝(12月24日夕・水)

教会紹介

●歴史

私たちの教会は、ジョン・ウェスレーを源流とするメソジスト(青山学院、東北学院など)の信仰を継承しており、メソジストの教職であった中田重治が1901年に創立したホーリネス教会の信仰を受け継いでいます。2022年3月27日に創立いたしました。

●教義

旧新約聖書66巻を誤りない神の言と信じ、唯一の正典として信仰生活の規範にしています。また三位一体の神を信じ、イエス・キリストによる以外に救いがないことを告白しています。特色は、下記に紹介する四重の福音を強調していることです。

【四重の福音】

四重の福音は、長老教会の牧師A. B. シンプソンが提唱したものを、ホーリネス教会の創設者中田重治が自らの信仰に基づいた理解を加え、福音宣教の際に掲げた教えです。

人間の幸せは神と共に生きることで実現するのですが、神を認めず生きているため、むなしく日を過ごしているのが現実です。しかし、イエス・キリストが十字架によって神と人との絆を回復してくださったのです。これが福音です。この福音を信じることで、人間は本来もっていた真の幸いを覚えながら、充実した人生を送れるのです。

中田は、聖書に書かれてあるこの福音をわかりやすく語るべく、前述の提唱にある新生、聖化、神癒(しんゆ)、再臨(さいりん)の4項目に基づいて、以下のようにまとめました。

◆**新生** キリストの十字架と復活を信じ、新しく生まれ変わる。これにより、天に住まう者のように、日々喜びが与えられる。(コリントの信徒への手紙 2:5:17 など)

◆**聖化** 神に属する者であるとの自覚が与えられたことで、自己中心に生きていた心が砕かれ、同時に神中心の生活を求め始め、神のきよさに近づくこと。(ガラテヤの信徒への手紙 2:19 ~ 20 など)

◆**神癒(しんゆ)** 肉体を持っているがゆえに弱る私たちが、神のあわれみにより、病い、そして死の恐怖にも打ち勝つ力が与えられ、苦しみから解放されること。(出エジプト記 15:26 など)

◆**再臨(栄化)** キリストが再び地上に来られること。その時、死んだ聖徒たちは復活し、生ける信徒は死を経験せずに天に挙げられる。(コリントの信徒への手紙 1:5:51 など)

教会の信条

さがみはら 相模原ホーリネス教会は以下を信条として掲げています。

わたし 私たちはイエス・キリストを救い主として信じています。

主イエスは、「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」と宣言されてから約3年間、人々にその教えとみわざを通して神の国の恵みを明らかにされ、そののち、私たちの罪を負って、十字架にかかれ、あがないを成し遂げ、神の国にはいる救いの道を開かれました。

この主イエスの救いへの招きに応じて神の国に属して生きる者となった私たちは、聖書が終末と示しているこの時代に、使命を全うすべく、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と信仰告白をした者たちと共に、神の国の鍵を与えられた教会の一員とされたことを覚えながら、聖霊の助けによって以下のことを宣証しつつ歩みます。

- ①キリストによる完全な救い
- ②真心からささげる礼拝
- ③キリストをかしらとした教会の交わり
- ④神の憐れみによるいやしと慰め
- ⑤信仰生活がもたらす祝福
- ⑥世界にも目を向けたとりなしの祈り
- ⑦神の愛に基づく社会への貢献

MEMO

単立 相模原ホーリネス教会

創立 2022年3月27日

主任牧師 土屋 和彦 牧師 石出 佳代子 牧師 土屋 淳子

252-0205 相模原市中央区小山 3-31-3

TEL&FAX 042(772)8910 e-mail church@bethels.info

ホームページ <http://www.bethels.info/>

